

# 田辺に独立リーグ球団

## 来季参戦 野球で地域盛り上げ

田辺・西牟婁を野球で盛り上げようと、田辺市などの有志が近畿地方のプロ野球独立リーグ「ベースボール・ファースト・リーグ」(BFL)に加盟する新球団を設立する。来季から田辺市の田辺スポーツパーク野球場や上富田町の上富田スポーツセンター野球場でリーグ戦や交流戦をする予定。



新球団設立についてあいさつする谷口弘理事長(中央)  
＝10日、田辺市上の山1丁目の田辺スポーツパークで

10日、田辺スポーツパーク野球場で関係者が記者会見をした。球団名は「和歌山ファイティングパズ」。運営するのは、近く設立登記するNPO「ANFUTURE」(田辺市鮎川、谷口弘理事長)と大塔交通社社長。すでにBFLから新規加盟の認可を受けている。

新球団は日本のプロ野球入りを目指す若者の受け皿になる。メンバーは11月にトライアウトをして25人ほど選出する。日本球界に関心が高い台湾などアジア圏の選手も積極的に獲得する方針。

谷口理事長によると、選手たちが地域に根付いて野球をするだけでなく、練習や試合の合間にアルバイトをして生活費を稼いでもらう。選手を引退した後も地元で働ける体制をつくり、この地で結婚、子育てをしてみようという過疎化の解消につなげたいという。

「和歌山ファイティングパズ」の由来は、田辺市の關

それまでは田辺や上富田で交流試合をするなどして機運を高める。

BFLは2015年、前期と後期で1チーム50試合近くあった。シーズンによって試合数は変わるが、1シーズンの半分がホーム球場での試合になる。

谷口理事長は「地域では若者が少なくなってきた。チームの若者がこの地に住むことで、過疎化の解消や地域の活性化につながれば。すでに

に協力を申し出ている地元の援してくれる人を増やしたい。事業所もある。開幕までに応えたい」と話している。

プロ野球独立リーグ「セ・リーグとパ・リーグがあるプロ野球(NPB)」とは異なる。近畿を中心とした「ベースボール・ファースト・リーグ」のほか、四国を中心とした「四国アイランドリーグplus」、関東・北信越・東北を中心とした「ベースボール・チャレンジリーグ」などがある。球団の運営資金はスポンサー収入や入場料収入が中心になるが、金銭的な問題から経営難に陥る球団も少なくない。2009年に発足した「関西独立リーグ」は加盟チームの活動休止や脱退が相次ぎ、13年に活動を停止。和歌山県の「紀州レンジャーズ」も所属していたが、球団としての活動は停止している。